

7章 構造機能論的アプローチ:現代家族のネオ機能分析の試み

- 社会構造—諸制度が構造維持に果たす機能分析:
- T.Parsons:A(adaptation)経済,G(goal attainment)政治,I(integration)コミュニケーション,L(latent pattern maintenance)文化 4つの機能要件
- 批判:1)生物有機体モデルは社会モデルたりうるか?
- 2)社会変動の説明は?誰が?どのように?
- 3)機能的でないものは病理・逸脱か? 離婚等
- ネオ機能分析:機能要件充足が困難になると変動??
- その他、家族の機能、変動への視点が述べられるが、意味不明

8章 システム論的アプローチ

- 家族システム論：精神分析→家族療法（精神疾患の要因としての家族、快復促進者としての家族）
- 家族システム円環モデル：family cohesionきずな、family adaptation かじとり、communicationが家族機能度を決定：これら諸要素のバランスがとれた中庸な家族→個人の心理的安定、成長、市民社会的志向性を涵養する
- 分析例：1)家族の絆←父・母・子の回答と相関あり、
- 2)阪神大震災後の家族の絆・かじとり度合いとストレス
- 3)市民社会と家族システム？（質問項目の重複効果？）
- 問題点1)傷ついた家族でも人はたくましく育つ、何不足ない家族でも子供がぐれることはある。なぜ？
- 2)家族の大きさは認める。しかし、それ以外の社会の要素（消費社会化、情報化）、或いは社会意識の変化（価値の溶解）、グローバリゼーションに伴う異文化の移入、葛藤が個人に与える影響も大きい